

10/22

## 辛亥革命 100 周年記念メインイベント 千万年光かがやく日中友好を目指して

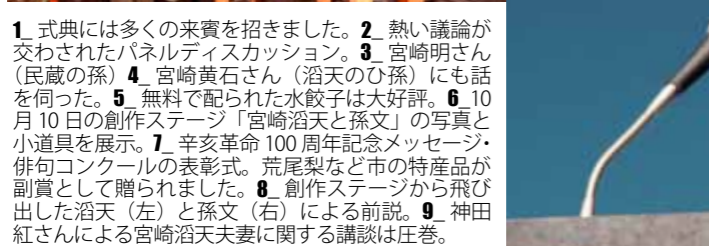
～辛亥革命 100 周年記念シンポジウム～

辛亥革命 100 周年の記念事業の最後を飾るメインイベント「辛亥革命 100 周年シンポジウム」は、文化センターで開催されました

パネルディスカッションでは、「辛亥革命 100 年と次の 100 年に向けた日中友好について」をテーマに熊本日日新聞社の松下純一郎編集局長がコーディネーターを務め、神戸市にある孫文記念館の安井三吉館長、日本女子大学の久保田文次名誉教授、熊本大学の谷口功学長、熊本県の蒲島郁夫知事をパネリストとして、宮崎兄弟と孫文の友情の歴史を生かした日中友好交流のあり方などに関する貴重な提言がなされました。

その後、神田紅さんの講演「滔天と妻・ツチの物語」が行われ、荒尾高校・熊本大学・福岡大学に在籍の日中両国の学生の皆さんによる「世界に一つだけの花」(SMAP)の歌がシンポジウムのフィナーレを飾りました。

辛亥革命 100 周年記念事業では、創作ステージ「宮崎滔天や孫文」など市民の皆さんの活躍を目にする機会がたくさんありました。来年は日中国交正常化 40 周年を迎えます。宮崎兄弟と孫文の絆が日中友好交流の種となり、今回の記念事業を通して、その種が両国の間に深く根付き、きれいな友好の花が咲くことでしょう。



1 式典には多くの来賓を招きました。2 熱い議論が交わされたパネルディスカッション。3 宮崎明さん(民蔵の孫) 4 宮崎黄石さん(滔天のひ孫)にも話を伺った。5 無料で配られた水餃子は大好評。6 10月10日の創作ステージ「宮崎滔天と孫文」の写真と小道具を展示。7 辛亥革命100周年記念メッセージ・俳句コンクールの表彰式。荒尾梨など市の特産品が副賞として贈られました。8 創作ステージから飛び出した滔天(左)と孫文(右)による前説。9 神田紅さんによる宮崎滔天夫妻に関する講演は圧巻。

10/28

## 積極的な活動が、全国へ紹介されます

～桜ゆりかご会の活動が社会参加活動事例へ～

同会は来年25周年を迎えます。ますの活躍に期待します。



コーラスグループ「桜ゆりかご会」(松島眞智子代表)が内閣府の社会参加活動事例として選ばれ、前畑市長から章状と盾が伝達されました。

同会は会員 58 人のうち、65 歳以上が 45 人。小学生と交流会や音楽会を開き、童謡の優しさや温かさを伝える活動を行っています。この活動が、積極的な社会参加活動を通じて充実した生活を送っている高齢者の社会参加活動の事例として、事例集などを通じて内閣府から全国の自治体などに紹介されます。

10/30

## 長年の熱戦について幕引き

～第 21 回県堺大綱引き大会 開催～

雨の中、たくさんの声援が送られました。



第 21 回県堺大綱引き大会は、荒尾市と大牟田市の県境の国道で行われました。

当日は終了を惜しむかのような激しい雨に包まれ、熱戦が繰り広げられました。

結果は残念ながら、子ども綱引き、大綱引きともに本市の惜敗でしたが、通算成績(総合)では本市が 11 勝 10 敗と勝ち越して大会を終了しました。

最後まで元気な荒尾を県内外の皆さんにアピールすることができた催しとなりました。

10/29-30

## 読書の祭典、今年もにぎやかに

～図書館まつり 開催～

つくってたべるおはなし会。肉まんを協力して作りました。



図書館まつりは、市立図書館と中央公民館で 2 日間開催されました。

熊本県ゆかりの漫画家を取り上げたヤングアダルト文学講座、絵本に登場する肉まんを実際に作り食べながら読み聞かせに参加する作って食べるおはなし会、小宮由さんによる絵本についての講演会、朗読会や本の交換会など、本に親しむ催しのほか、ゴスペルやタヒチアンダンスなども披露されました。参加者は彩り豊かな「読書の秋」を満喫していました。

10/11

## 荒尾の新しい特産品を目指します

～オリーブの鉢を市役所前に設置～

新しい荒尾の特産品になるよう、マジックも頑張ります。



市役所正面玄関前の駐車場に、オリーブ鉢の設置式が開催されました。式典には熊本県建設業協会荒尾支部、荒尾市オリーブ研究会、樺・海行原地域の皆さんなどが出席しました。このオリーブは、樺・海行原地域オリーブモデル園で育てられている苗木の中から選ばれたものです。

現在市では、オリーブ栽培を農家の皆さんに推進していて、荒尾市の特産品としてブランド化することを目指しています。市役所にお越しの際は、ぜひご覧ください。